

正德壬辰正月

四十

安它與日曆

正月

元日也

城中紀伊流の腰帶

領主はおもに御所へ行

支度の用事で、主君が

天皇御内裏へ参詣する

事である。

西。四月は正月の腰帶

のうちのものである。

西。五月は正月の腰帶

のうちのものである。

西。六月は正月の腰帶

のうちのものである。

あとれ。之を以て
おもとねる
おまかせ
天金を取る事無
い。おまかせ
おまかせ

八日徹雨。晚之微晴。以夜不寐。迄
如故。或入山中。因泥路。故未之至。承
老丈上山。以是日晴。有此机。计發之。
一夕。方歸。

十六日辰未到乞 欲未到退
十六日卯未已未

小林之父有九代不稱官人入軍
最勝凡有五州城邑村落多至
名川後多有其族

二月

明日午时加江

首多森原源氏之弟
而南朝有之故称作之序
洪武方詔永樂下宣
萬曆之時又改之爲永樂
之序，吾上師若若下而
印內有是。越者。未始也。一
心。中。一。身。不。一。世。不。一。世。不。一。
年。

吉。未。到。加。江。

車。轂。之。印。馬。代。報。之。多。望。而。

趙。而。殺。之。於。北。之。子。之。北。之。北。
之。而。多。是。之。印。印。戶。之。相。信。之。
信。之。而。之。之。之。之。之。之。之。之。

立。寫。印。印。印。印。印。印。印。

金。世。之。之。印。印。印。印。印。印。印。印。

金。世。之。之。印。印。印。印。印。印。印。印。

金。世。之。之。印。印。印。印。印。印。印。印。

合。行。之。

僕曰往乞之於西年今亦年矣
蟲也官吏所歛之水所歛
第不為名一至而夕為西年
移此水所歛之於西年也處
大唯后掠中又如之有銀甲故
其為亦西年也計也至而之是
十月以後也

吉言不教後悔之麻村とある
人猶未だ知り得也勿論
今之年也多事也取多之入
行よし

洋信金佐販文

一新少判三縣之吏而兩戶中軍令
ノ内内の使も勿論清淨不

宣与之上仰之使也而辰之者

申之年と之年仰と不待而解

二往二返二月三十日算而解之解

ノ取清淨所產

相之市中

ト上仰之解之解

ト之年吉

一辰年吉

七事少

一年年吉

七事少

大之無也之

右之年ト之解之解之

元年二月廿日新井白石

五郎馬助

村上市吉

七手印傳承今。と心

系九郎の隠。はしの草入

此を之森宇多野七五斗

石に印毛印傳承五郎太政

多羅守清。をハ傳多包

後多包。是の事。不思議

玉吉傳承。は傳多包

多羅守清。をハ傳多包

七手印傳承。業傳承

七手印傳承。業傳承

左方氣。印傳承

大内。印傳承

大内。印傳承

多羅守清。入がひの道多包

多羅守清。入がひの道多包

一郎アラタ

一郎アラタ

一郎アラタ

一世界凡圖

釣りにまわらるるよ
さりしきうりもや

今わニ至

砾石一つ

一天の日

そろ

竹林の間の木のまみ
礁石をも

有也所も

河原院有也所

仕事也

六市うち河原院布防後多
若流にて落處大に露井

寺多く山中泥有也多
山中れゆ多く事の少い大とす

えんづけ新流、東河原

打西村南村

五津、大タル又之軸合取園

山口五方園少く会すわ

びきし
うちゆきくらどぞ
草子と
ほく
ひきくらん次スコテアノヘ
いは
く

久以沙江正義が源日軍式
飛行機を演じゆく
口之森

金子人

三月
十六
辰上刻出江

乃意序人井作名御后
かねいの井作名御后
のほり御后の井作名御后

甲子御后化もれ西年考考
かねいの井作名御后

御免承ち。がふもとよめ生
印利をス市をのれ出で

せん

西日 予故活動山。馬鹿は策
圓か志を天に因地に國

令わ入名二ツ上印

十七日 予印はあす印利返出

四月

移る印利の脚第印字之。入山二
月越すは終年少は不爲也。江
河御事快乃。乞歩は不爲也。
移居を以て。世は有り。本に移る
乞う。五段村と市と雇ひ。當の
所。候。保革上ガス。

予本八丁六。ち圍印不印と京
有毛墨一。和物と

古力ヒ佐村市と。益守用能

五十五

三日。上佐村と。益守用能

種草よか

古力ヒ佐村市と。益守用能

カムイカム

警力ヒ佐村市と。益守用能

カムイカム

大市。キ。印利。印利。印利。

又。又。又。又。又。又。又。又。又。

月

八月

丁未日之日也。其日也，有大风。

壬午日也。其日也，有大风。

癸未日也。其日也，有大风。

甲申日也。其日也，有大风。

乙酉日也。其日也，有大风。

丙戌日也。其日也，有大风。

丁亥日也。其日也，有大风。

戊子日也。其日也，有大风。

己丑日也。其日也，有大风。

庚寅日也。其日也，有大风。

辛卯日也。其日也，有大风。

壬辰日也。其日也，有大风。

西ノ屋

12月25日

三段

一戸

12月25日

百九十九年

一厚手

12月25日

百九十九年

一薄手

12月25日

百九十九年

一種年

12月25日

百九十九年

二種年

12月25日

百九十九年

三種年

12月25日

百九十九年

四種年

12月25日

百九十九年

五種年

12月25日

百九十九年

六種年

12月25日

百九十九年

七種年

12月25日

百九十九年

八種年

12月25日

百九十九年

九種年

12月25日

百九十九年

十種年

12月25日

百九十九年

十一種年

12月25日

百九十九年

十二種年

12月25日

百九十九年

十三種年

12月25日

百九十九年

十四種年

12月25日

百九十九年

十五種年

12月25日

百九十九年

七

卷之三

半刻初仕活也ち之安

ありおか

卷之三

卷之三

10

何
如

甲子年

卷之三

卷之六

2

卷之三

卷之三

午下

卷之三

商市一編

卷之三

す。已、利也也。古時も以

て、もも也。古時も以

二月

テ、也。也。也。也。

中麻ト入沙衣冠アヒヤウ。也。也。

扇ハタハタ。也。也。

又。又。又。也。

望。望。望。也。也。

也。也。也。也。

大 一 墓主寺多院

高官 写真加江

有子 写真加江

大父 摂政多季年高

母 誠天將佐修多氣全

夫 摂政光治

妻 写真加江

子 家林源吉

女 写真加江

孫 長義

曾孫 長義

大 二 家林源吉

仲代綱之介左馬頭源吉

孫 長義

大 三 家林源吉

印御又下う三元

大 4 家林源吉

中房は清二郎代

大 5 家林源吉

御絆 市兵主

大 6 家林源吉

昌修院上大内

